

## 『高齢者による自立社会の形成』

近年、わが国における高齢化は深刻な問題となっており、福祉、年金、税金負担など課題は山積みである。九州における高齢化が全国の平均を上回る速度で進行していることは周知の事実である。したがって、九州では全国に先駆ける高齢化対策を発信していく必要があると考える。そこでまちづくりという観点からのひとつの可能性として、高齢者向けにデザインされたまちの創造を提案する。現在、高齢者向けの住宅や施設等が増加しているが、今回提案したいのはひとつのエリアを面的に高齢者向けにするというものである。

医療の現場では、ターミナルケアという医療形態が注目を浴びている。これは、人生の最後をいかに楽しく、充実したものにするかという精神から生まれた医療の一形態である。本提案も高齢期を迎えた人が第3の人生を有意義に過ごし、かつ地域の発展に寄与することができる方法はないかと考えたものである。

### (1) 現代の居住空間

居住空間において、都心部と地方部、その中間地という3つの分類が考えられる。

都心部では日常生活に必要な機能の集中により生活に関する便利さは提供されているものの、それらすべてをバリアフリー化することは困難で、物理的・心理的な住みにくさが見られる。

逆に、地方部は高齢者にとって心理的な安心感・快適さは得られるが、暮らしていく上での不便さは重大な問題である。

また、中間地においては公共交通機関が十分でなく、円滑な移動性が確保されていない。

このように、現代の居住空間はいずれも高齢者にとって住みやすいものとはなっていないと考えられる。

そこで、以下のようなまちの形態を提案する。

### (2) 提案するまちの特徴

#### ①バリアフリーの徹底

エリア内は、国または地方公共団体がモデル的地区に指定し、バリアフリー施策を当該地区に集中させることによって重点的にバリアフリー化され移動がスムーズになされる。

#### ②ゆとりある生活環境

自然豊かな風景に囲まれ、ゆっくりと流れる時間の中で穏やかに暮らすことができる。また、スーパーや百貨店などの生活に必要な機能は必要に応じて立地し、近隣地域からの労働力や住民の手によって稼働させる。

#### ③観光開発

居住する高齢者の労働力や昔のものを大事にしようという思いに期待して、土木遺産等の保存と活用を図り、九州の魅力ある土木遺産を核とした観光の誘致につなげる。

#### ④医療・福祉の充実

医療施設へのアクセスは高水準を確保し、緊急事態に備える。福祉機関も整備され、介護が行き届いている。このことにより、医療・福祉関連の雇用の場の創出にもつながると考えられる。

#### ⑤他地区との交流

近隣の地区と共同でイベント・活動等を実施し、若者と高齢者の交流を図る。内容は、お祭・スポーツ大会・伝統的な技の伝承等、多岐にわたる。

#### ⑥循環型社会の実現

近年、温暖化問題をはじめとした地球環境問題への意識が高まりつつあり、企業レベルでは水や熱エネルギーの再利用などが導入されている。

しかし、これらの取り組みはその地域を利用する全ての人や企業が意識を持ち取り組まなければ循環型社会は成り立たず、各企業のコストダウンおよびイメージアップに繋げるための施策の一つにしかなく、現実ではないのが現実である。

そこで、この町では高齢者の環境問題に対する考え方から生まれる団結力により、町全体での循環型社会を実現することができるのではないかと考える。

#### ⑦資金源について

このような高齢化を促進し自給自足を可能とする町をおこすのは実際問題、経済的に自立困難である。しかし、循環型社会を実現することによって、大規模災害時には近隣町村の避難地となり、資金面での援助が受けられると私は考える。

循環型社会の実現

### (3) 最後に

今回、提案する高齢者CITYは、立地、運営等現実的な問題については未検討である。しかし、高齢化社会への移行は既に我々が直面している問題であり、早急に打開策を講じる必要がある。本提案が、我々が現在抱える高齢化社会の問題に対して、ひとつの打開策となれば幸いである。